

近世における日中比較文学研究



教授 川上 陽介

研究分野

日本近世文学、中国白話文学

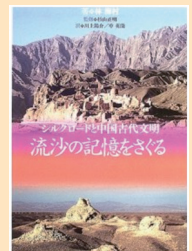
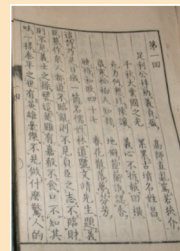
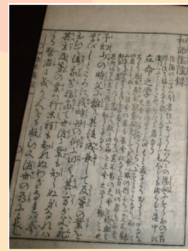
研究内容

江戸時代の日本人は、人間として大切にすべきものは何かという思想を実にさまざまな形で表現しています。私の研究目的は、そのような江戸時代の精神基盤にもとづいて、文学テキストを正確に読み解くことにあります。

私の研究のポイント

江戸時代の日本文学作品を研究しています。文学作品の「ことば」を正確に理解するためには、その「ことば」が担っている重層的な文化的背景を知らなければなりません。十八世紀の日本人にとって最新のポップカルチャーであった中国白話文学の役割にも留意しつつ、洒落本、談義本、読本、滑稽本、笑話集などの作品を読み、江戸時代の「ことば」を正確に理解し、味わうことを目指しています。

REPORT リポート



(右)：浄瑠璃「仮名手本忠臣蔵」を江戸時代の日本人が中国語（白話小説）に翻訳したもの（『日本忠臣蔵』）。

(左)：中国で出版された道德の教科書『陰騭録（いんしつろく）』を江戸時代の日本人が翻訳したもの（『和語陰騭録』）。

林梅村
『流沙の記憶をさぐる—シルクロードと中国古代文明』の翻訳をしました。